

第11回「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」結果発表

**衛星放送事業者を対象とした市場の予測に関するアンケート
市場の伸びに対して、消極的な見方をする事業者もあることが明らかに。**

多チャンネル放送研究所(所長:音 好宏)は、第11回目となる「多チャンネル放送市場・事業者予測調査」を実施しました。これは、同研究所が(一社)衛星放送協会の正会員社の各チャンネルを対象に、多チャンネル放送マーケットの現状と先行き見通しについて調査しているものです。

本調査では、『現状』、『1年後』、『2年後』という3つの時点について、会員各社が多チャンネルマーケットの動向をどのように捉えているかを訊ねています。

調査時点が2012年11月で、『1年後』は2013年後半、『2年後』は2014年後半になります。

調査の結果、現状や1年後の衛星放送事業者の加入者数、視聴料収入についての見通しは、前回調査(2012年11月実施)に比べ、ほぼすべての時点で「横ばい」が、「増加」「減少」を抑えて拡大していることがわかりました。

広告収入についても同様な傾向がみられ、その他の事業収入だけが増加傾向が最も多いという状態が続いています。

今回の調査では、新BS開始やHD化の進展などの市場全体に関する変化要素も多い一方で、多チャンネル放送市場の伸びに対して、消極的な見方をする事業者もあることが明らかになっているようにも思われます。

多チャンネル放送研究所では、今後も定期的に調査を実施し、会員各社の多チャンネル放送のマーケット観を立体的に捉えていく方針です。

本報告書の問合せ先

多チャンネル放送研究所〈(一社)衛星放送協会内〉
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-8 あまかすビル4F
担当 高橋淳二
TEL 03-3597-3211
Email : takahashi@eiseihoso.org

調査結果の概要

1. 期待感はあるものの、消極的あるいは不透明感が拡大している

自社チャンネルの加入者予測の全般的な動向を見ると、『現状』では「大幅増」(1.3%)と「増加」(31.2%)を合わせて「増加傾向」(32.5%)、「横ばい」(49.4%)、「減少」(18.2%)となり、例年最も多かった「増加傾向」と「横ばい」が逆転して、「横ばい」が最も多い結果となり、さらに「減少」は前回(16.0%)よりも拡大した。

『1年後』では「増加傾向」が最も多く41.6%、それに続いて「横ばい」が36.4%、「減少」が22.1%となり、前回逆転していた「横ばい」(42.7%)を今回は再度「増加」(前回40.0%)が上回った形となったが、減少は前回(14.6%)よりも拡大している。

『2年後』では前回最も多かった「増加」(35.1%)が、「横ばい」(41.6%)に逆転されており、続く「減少」(23.4%)も前回調査時(17.3%)よりも拡大している。

全体としては、『1年後』では「増加」に対する期待感はあるものの、『現状』『2年後』では「横ばい」が最も多く、『現状』『1年後』『2年後』全てにおいて、「減少」が拡大していることから、短期的な自社チャンネル加入動向の見通しについては、消極的あるいは不透明感が拡大しているものと思われる。

2. 停滞感・縮小感といった消極的な見方が伸長

多チャンネル放送全体については、「横ばい」が『現状』で58.4%(前回49.3%)、『1年後』で57.1%(前回45.3%)、『2年後』で55.8%(前回50.7%)と、いずれも最も多い結果でかつ引き続き伸長した。一方で、「増加」は『現状』で26.0%(前回42.7%)、『1年後』で23.4%(前回37.3%)、『2年後』で22.1%(前回29.3%)と、急激に低下する厳しい市況観となった。また、「減少」についても『現状』で14.3%(前回6.7%)、『1年後』で16.9%(前回13.3%)、『2年後』で19.5%(前回16.0%)と、「減少」の見方が増えており、多チャンネル放送市場全体に対しても停滞感・縮小感といった消極的な見方が伸長していることが分かる。

3. 1・2年後、状況は厳しくなるとの見方が強まっている

自社の視聴料収入について、『現状』では前回までは「横ばい」が増加傾向であったものの、今回から「減少傾向」が前回比4.7ポイント増え、目先の厳しさが増してきていると感じている事業者が増えている。さらにこの傾向は、1・2年後に顕著になり、「増加」「横ばい」と見る事業者がそれぞれ数ポイントずつ減らし、かわりに「減少」と見る事業者が前回調査と比べて15%以上増と急伸している事が特徴的である。このことから、現状以上に1・2年後、状況が厳しくなるとの見方が強まっている事が読み取れる。

4. 今後も広告収入は「横ばい」もしくは「増加」するとの回答が多い

自社チャンネルの広告収入については、『現状』では「増加」が40.3%と最も多く、次いで「横ばい」が36.4%となっており、「減少」とする回答は7.8%と少ない。『1年後』『2年後』の予測では、「増加」と「横ばい」の順番は入れ替わるものの2つの回答を合わせて約80%程度を占める状態は変わらず、今後も広告収入は「増加」もしくは「横ばい」と考えている事業者が多い。

なお、無回答が『現状』『1年後』『2年後』のいずれも11.7%あり、チャンネルの中には広告を実施していないところもあることにも留意されたい。

5. 短・中期的にはその拡大に期待している事業者が多い

自社チャンネルのその他事業収入については、『現状』では「横ばい」が58.4%と最も多く、次いで「増加」が28.6%となっており「減少」とする回答は5.2%と少ない。

『1年後』『2年後』の予測では、「横ばい」が最も多い傾向は変わらないが、「増加」との差は比較的小さい。

直近ではその他事業収入は横ばいではあるが、短・中期的にはその拡大に期待している事業者が多いものと見られる。

調 査 の 概 要 に つ い て

1. 調査時期 2012年11月
2. 調査対象 衛星放送協会正会員社の有料チャンネル（91チャンネル）
3. 調査方法 郵送法
4. 回答回収数 77チャンネル
5. 回答回収率 84.6%

調査結果詳細

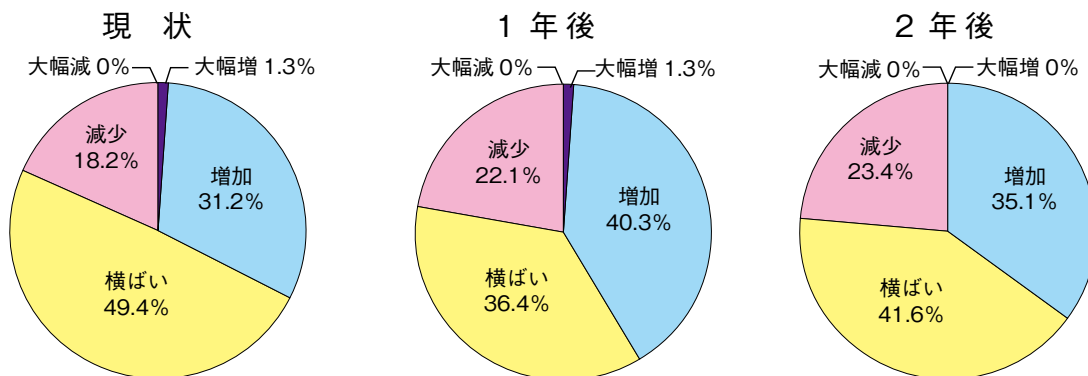
1. 自社チャンネルの加入者動向予測

自社チャンネルの加入者予測の全般的な動向を見ると、『現状』では「大幅増」(1.3%)と「増加」(31.2%)を合わせて「増加傾向」(32.5%)、「横ばい」(49.4%)、「減少」(18.2%)となり、例年最も多かった「増加傾向」と「横ばい」が逆転して、「横ばい」が最も多い結果となり、さらに「減少」は前回(16.0%)よりも拡大した。

『1年後』では「増加傾向」が最も多く41.6%、それに続いて「横ばい」が36.4%、「減少」が22.1%となり、前回逆転していた「横ばい」(42.7%)を今回は再度「増加」(前回40.0%)が上回った形となったが、減少は前回(14.6%)よりも拡大している。

『2年後』では前回最も多かった「増加」(35.1%)が、「横ばい」(41.6%)に逆転されており、続く「減少」(23.4%)も前回調査時(17.3%)よりも拡大している。

全体としては、『1年後』では「増加」に対する期待感はあるものの、『現状』『2年後』では「横ばい」が最も多く、『現状』『1年後』『2年後』全てにおいて、「減少」が拡大していることから、短期的な自社チャンネル加入動向の見通しについては、消極的あるいは不透明感が拡大しているものと思われる。

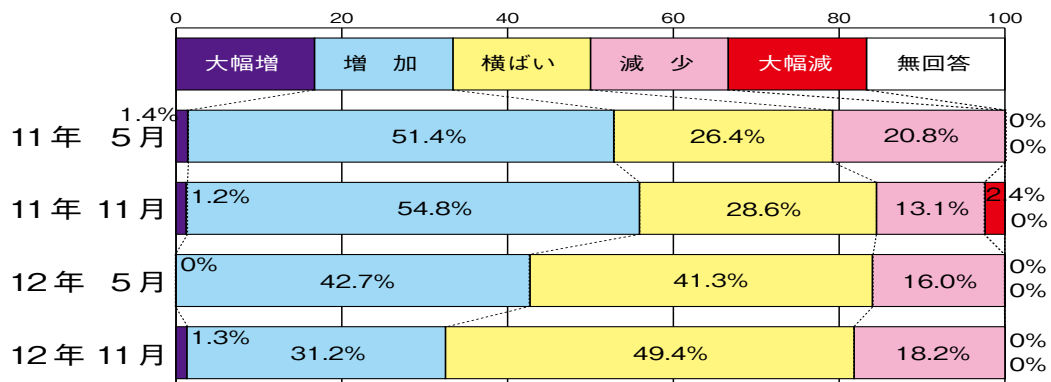


2. 自社チャンネルの加入者動向予測推移

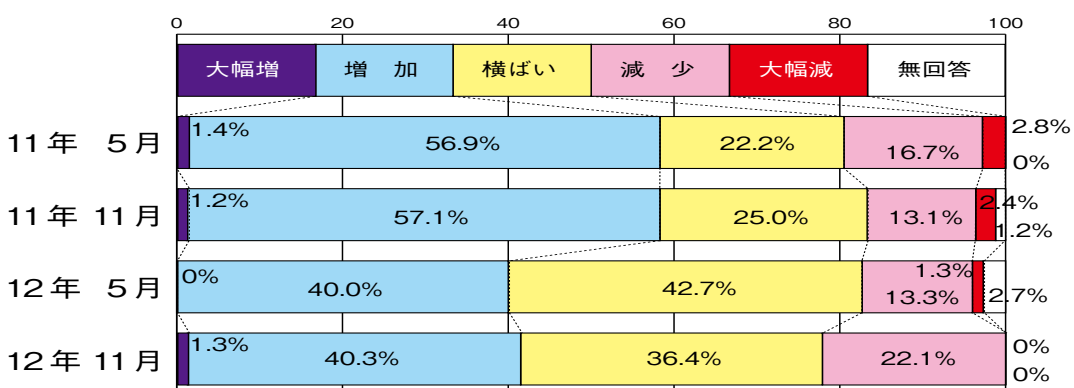
自社チャンネルの加入者動向を、これまでの調査結果と比較した。

前回調査に比べると、「増加傾向」は『1年後』ではほぼ横ばいであるものの、『現状』『2年後』では、引き続き大きく下げっており、約10ポイントの減となっている。前回調査で拡大してきた停滞感は、今回『現状』『2年後』の「横ばい」の拡大と全てにおいて「減少」が2～9ポイント拡大していることから見ても、今回調査では一層の停滞感の伸長あるいは市場の縮小懸念となっていることが見て取れる。

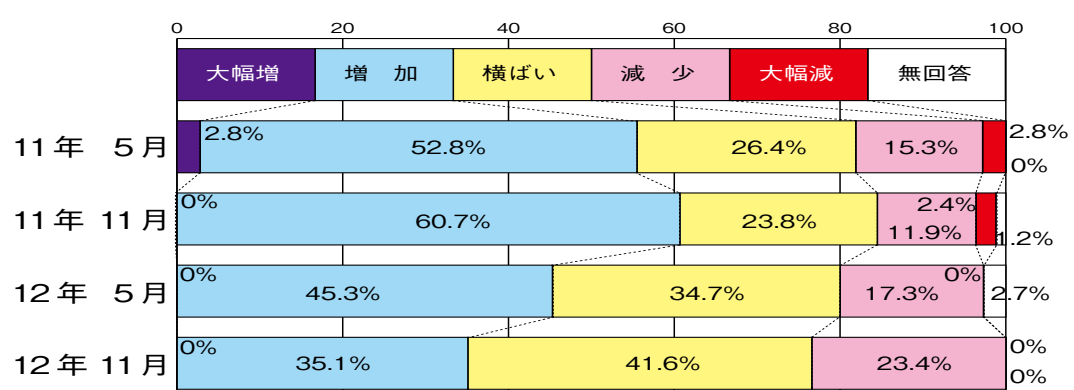
自社加入者数予測(現状)―前回調査との比較



自社加入者数予測(1年後)―前回調査との比較



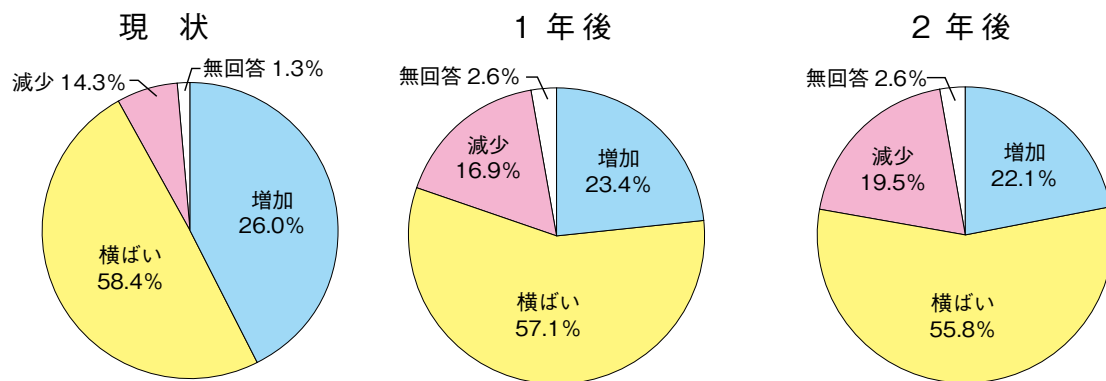
自社加入者数予測(2年後)―前回調査との比較



3. 多チャンネル放送全体の加入者動向

多チャンネル放送市場全体の加入者予測を各事業者に尋ねた。

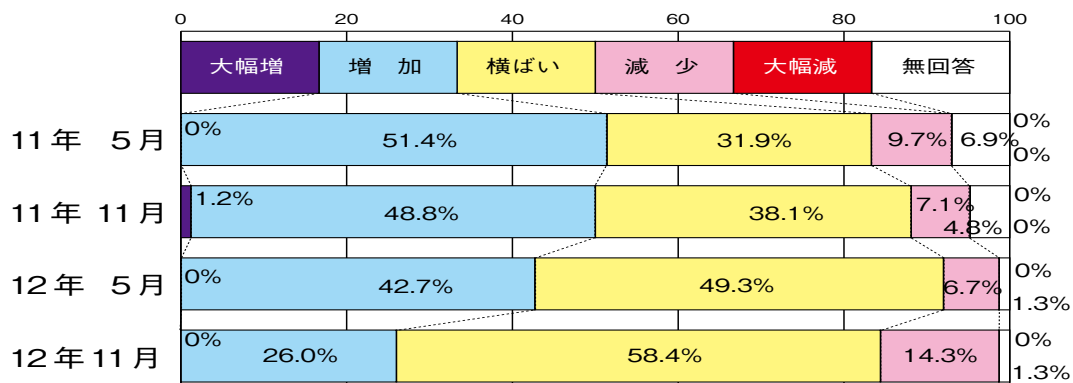
多チャンネル放送全体については、「横ばい」が『現状』で58.4%（前回49.3%）、『1年後』で57.1%（前回45.3%）、『2年後』で55.8%（前回50.7%）と、いずれも最も多い結果でかつ引き続き伸長した。一方で、「増加」は『現状』で26.0%（前回42.7%）、『1年後』で23.4%（前回37.3%）、『2年後』で22.1%（前回29.3%）と、急激に低下する厳しい市況観となった。また、「減少」についても『現状』で14.3%（前回6.7%）、『1年後』で16.9%（前回13.3%）、『2年後』で19.5%（前回16.0%）と、「減少」の見方が増えており、多チャンネル放送市場全体に対しても停滞感・縮小感といった消極的な見方が伸長していることが分かる。



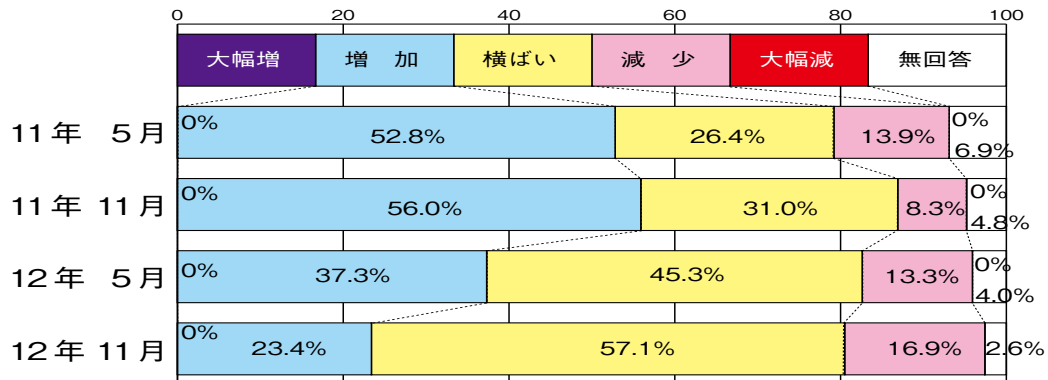
4. 多チャンネル放送全体についての予測推移

マーケット全体の加入者予測を前回調査と比べると、「増加」が『現状』では16.7ポイント、『1年後』には13.9ポイント、『2年後』には7.2ポイントの低下、と継続的に大きく下げていることが分かる。また、「横ばい」は『現状』で9.1ポイント、『1年後』で11.8ポイント、『2年後』で5.1ポイントの増加、「減少傾向」は『現状』で7.6ポイント、『1年後』は3.6ポイント、『2年後』は3.5ポイントの増加となっており、「増加」の急激な下降、「横ばい」「減少」の拡大からも、多チャンネル放送全体の市況観は、横ばいの停滞感と、あるいはやや縮小トレンドに向かうのではないかという懸念が見られる。

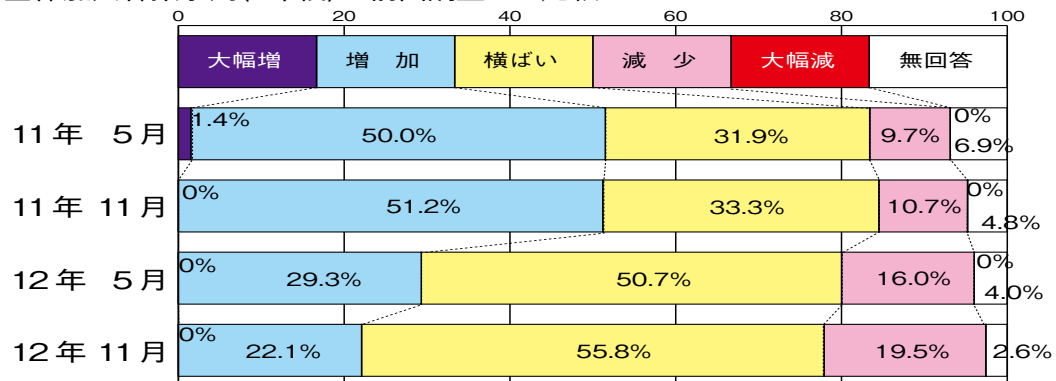
市場全体加入者数予測(現状)―前回調査との比較



市場全体加入者数予測(1年後)―前回調査との比較

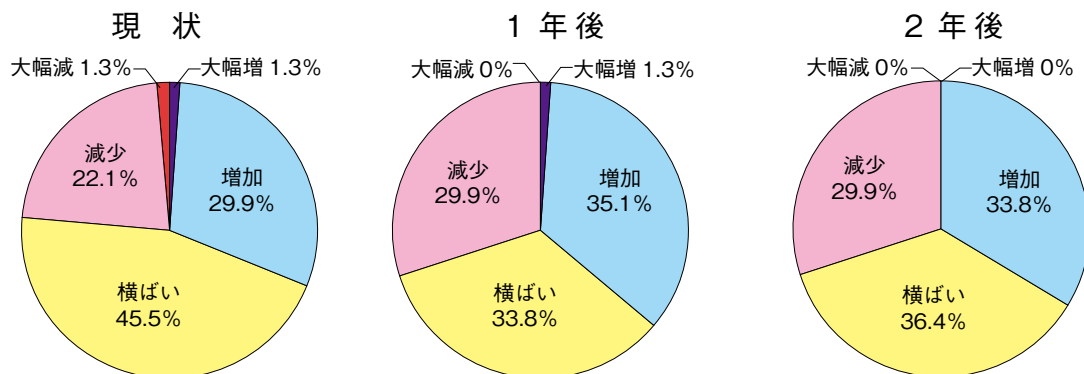


市場全体加入者数予測(2年後)―前回調査との比較



5. 視聴料収入予測

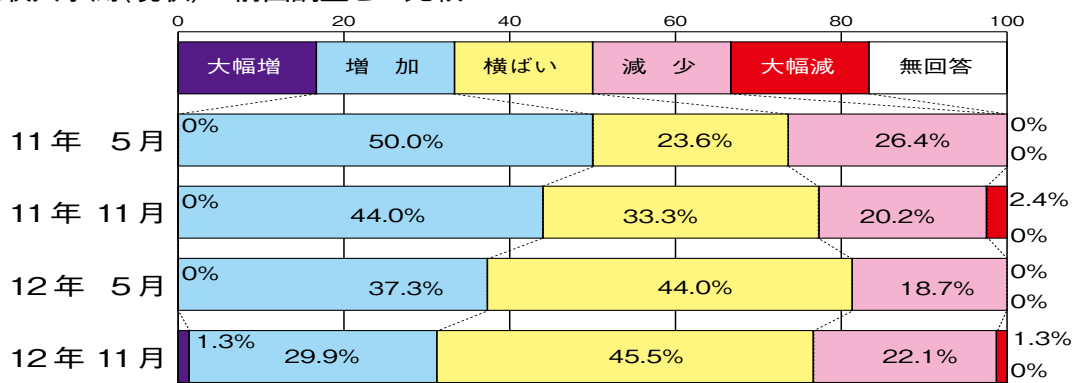
自社の視聴料収入においては、『現状』では前回からの傾向であった「横ばい」と見る向きがさらに1.5ポイント増え最も多く、「増加傾向」という回答がかわるじて3割を守ったという印象になった。1・2年後の予測では、「増加傾向」との回答も3割強あるものの、「減少傾向」という回答も約30%という結果になり、今後の視聴料収入予測としては「増加」「横ばい」「減少」でほぼ3つに見方が分かれたのが特徴的である。



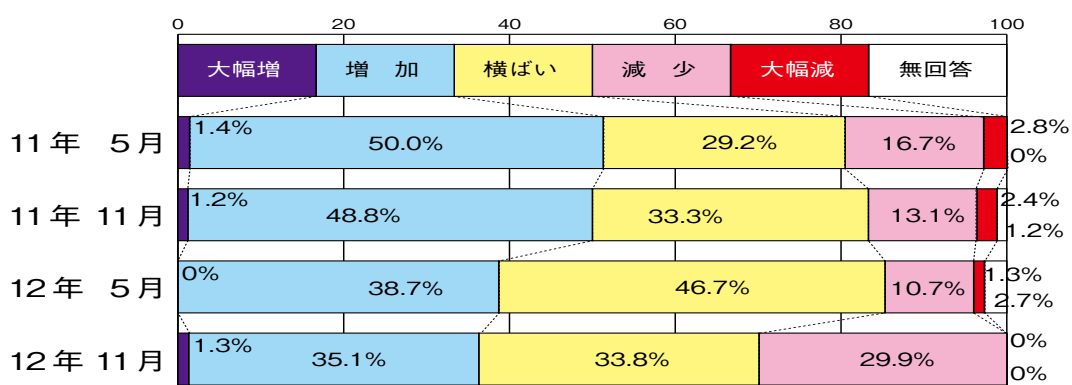
6. 自社チャンネル視聴料予測の推移

『現状』では前回までは「横ばい」が増加傾向であったものの、今回から「減少傾向」が前回比4.7ポイント増え、目先の厳しさが増してきていると感じている事業者が増えている。さらにこの傾向は、1・2年後に顕著になり、「増加」「横ばい」と見る事業者がそれぞれ数ポイントずつ減らし、かわりに「減少」と見る事業者が前回調査と比べて15%以上増と急伸している事が特徴的である。このことから、現状以上に1・2年後、状況が厳しくなるとの見方が強まっている事が読み取れる。

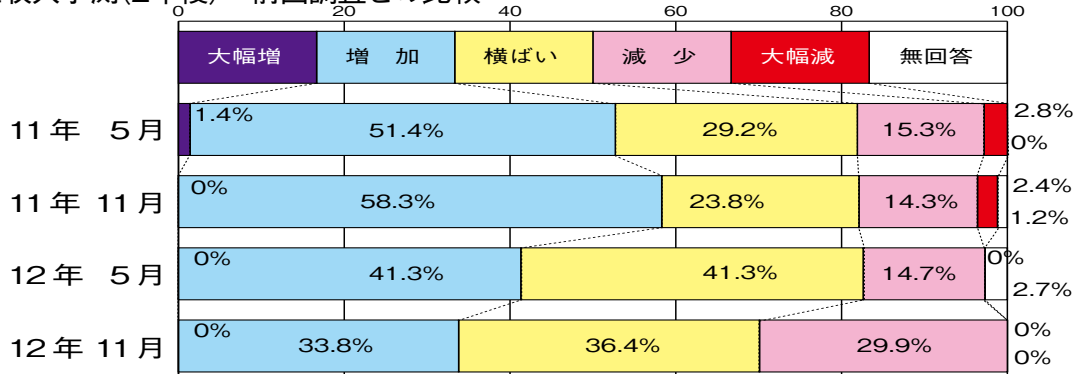
自社収入予測(現状)―前回調査との比較



自社収入予測(1年後)―前回調査との比較



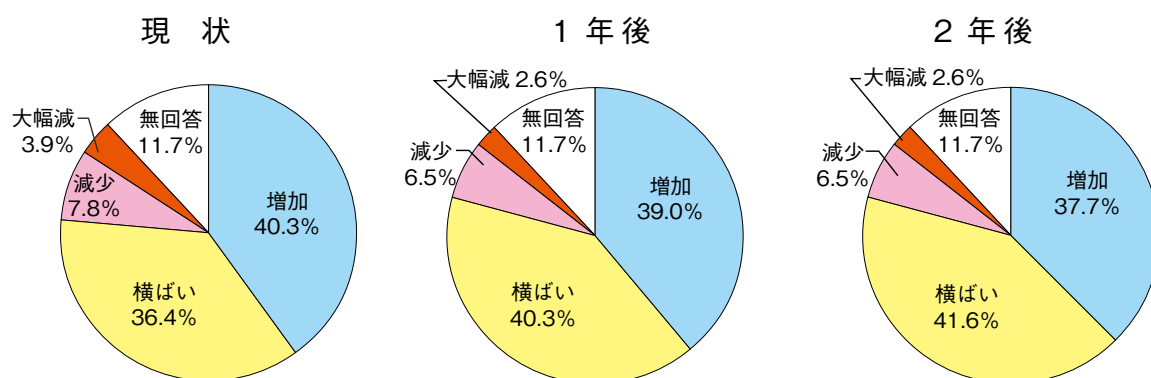
自社収入予測(2年後)―前回調査との比較



7. 広告収入の動向

自社チャンネルの広告収入については、『現状』では「増加」が40.3%と最も多く、次いで「横ばい」が36.4%となっており、「減少」とする回答は7.8%と少ない。『1年後』『2年後』の予測では、「増加」と「横ばい」の順番は入れ替わるものの2つの回答を合わせて約80%程度を占める状態は変わらず、今後も広告収入は「増加」もしくは「横ばい」と考えている事業者が多い。

なお、無回答が『現状』『1年後』『2年後』のいずれも11.7%あり、チャンネルの中には広告を実施していないところもあることにも留意されたい。

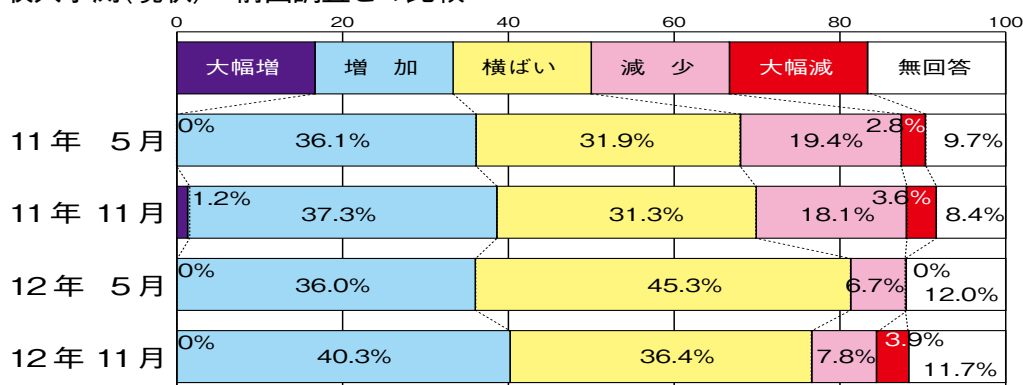


8. 広告収入予測の推移

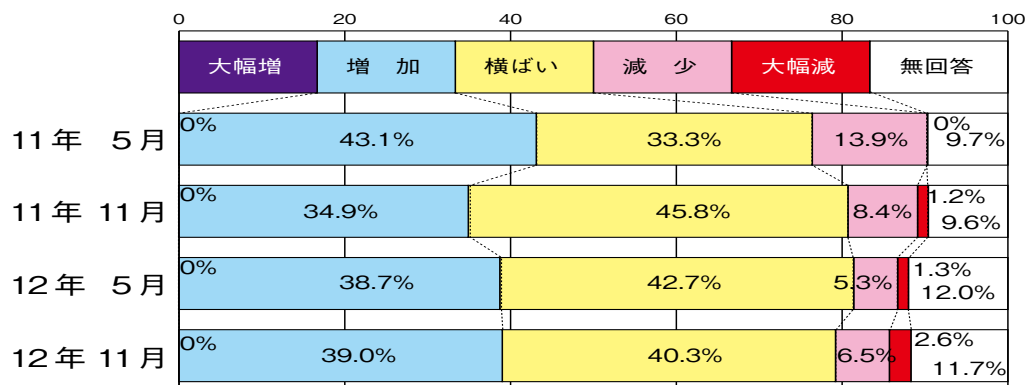
『現状』については、2012年5月実施の前回調査では「横ばい」が大きく上昇し最も多い回答となったが、今回調査では大きく下降し「増加」の回答が最も多くなった。一方、「減少」は前回調査に引き続き10%を切る回答となった。

『1年後』『2年後』については、前回調査と同様、「横ばい」が最も多く次いで「増加」が多い。ただし、前回調査と比べるとその差は縮まっており、広告収入に対する今後に向けた期待度も高まっていると捉えられる。

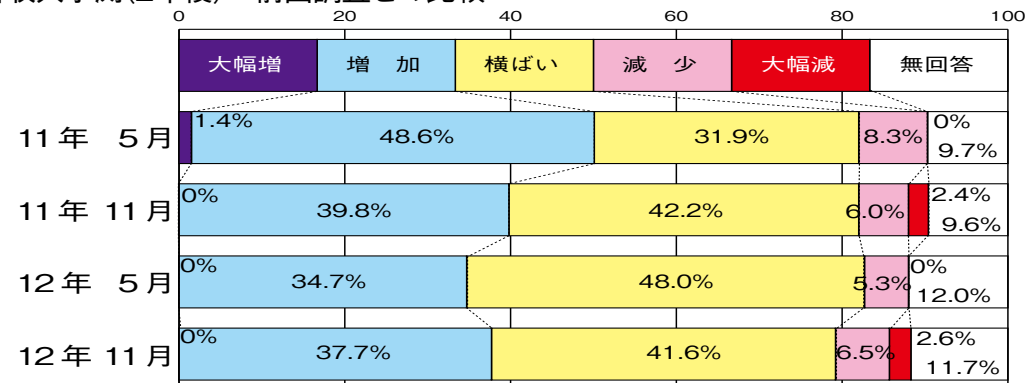
広告収入予測(現状)―前回調査との比較



広告収入予測(1年後)―前回調査との比較



広告収入予測(2年後)―前回調査との比較

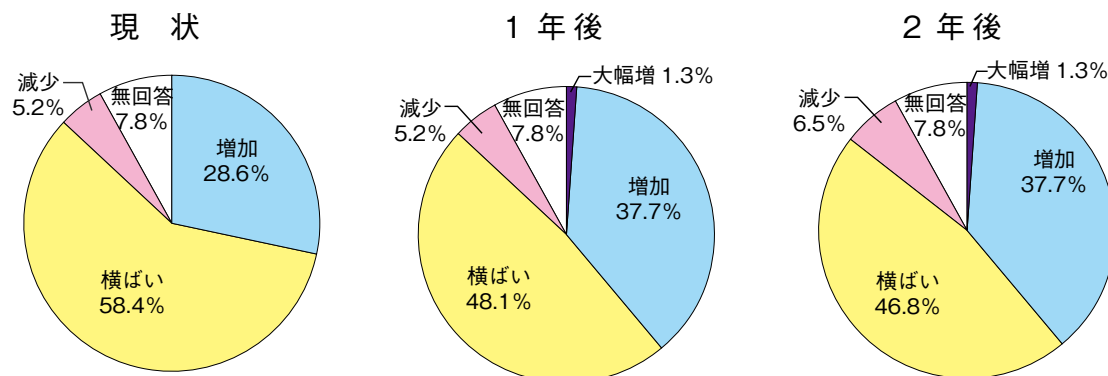


9. その他事業収入予測

自社チャンネルのその他事業収入については、『現状』では「横ばい」が58.4%と最も多く、次いで「増加」が28.6%となっており「減少」とする回答は5.2%と少ない。

『1年後』『2年後』の予測では、「横ばい」が最も多い傾向は変わらないが、「増加」との差は比較的小さい。

直近ではその他事業収入は横ばいではあるが、短・中期的にはその拡大に期待している事業者が多いものと見られる。

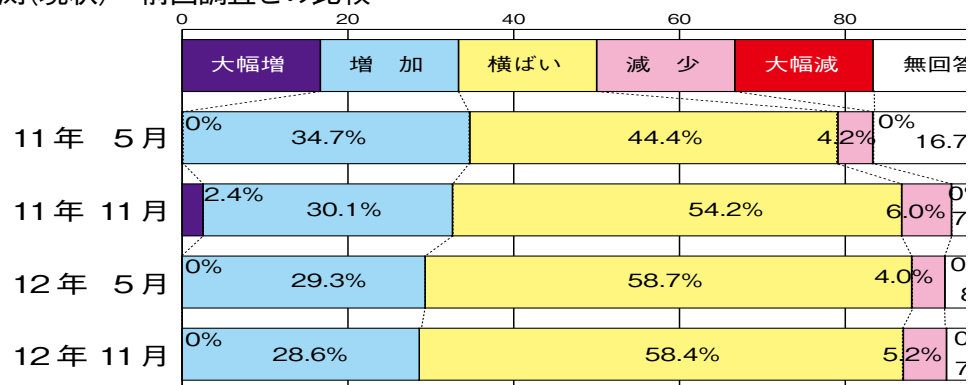


10. その他事業収入予測の推移

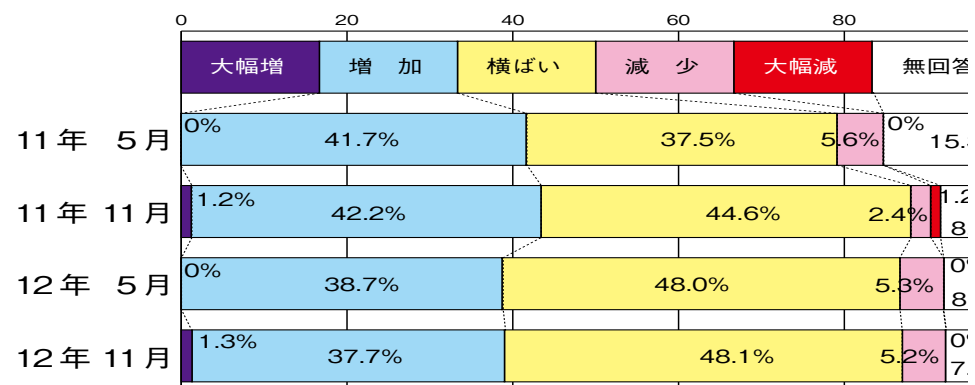
『現在』『1年後』『2年後』のいずれにおいても前回調査とほぼ同じ傾向である。

その他事業収入は直近では横ばいではあるが、将来に向けて拡大に期待をしている事業者が多い傾向が続いている。

その他の収入予測(現状)―前回調査との比較



その他の収入予測(1年後)―前回調査との比較



その他の収入予測(2年後)―前回調査との比較

